# 子育てには答えがない　R４．７．４　No.１３

## 人間関係をよくする「聞く」と「伝える」

子どもさんが学校から帰ってきたら、「今日、学校どうだった。」と、話を聞きますよね。我が子は、学校へ楽しくいっているのだろうか、学校の勉強は分かっているのだろうか、友達関係はうまくいっているのだろうかと心配しているから聞くのですね。親子の会話をするという点ではよいことだと思います。でも、「今日、どうだった。」と聞くと、子どもは答える選択肢が広がります。でも、「今日、学校どうだった。」と聞くということは、聞く人が答えを学校に限定してしまうことになります。だから、返ってくる返事は「別に。」なんてことになったりします。「聞く」ということは、聞く人が無条件にすべてを受け入れる心構えで聞くのが本当の「聞く」です。

「伝える」ことは、言葉のキャッチボールをしなければいけません。強い言葉やいやみな言葉は、相手を攻撃するだけになってしまいます。言葉に気持ちを込めて伝えるのが本当の「伝える」です。例えば、「今日一緒に夕食を食べに行こう。」と誘われた時、「今日は予定があるの。ごめんなさい。」と断るのか、「誘ってくれてありがとう。でも、今日は予定があるの。ごめんなさい。」と断るのか、同じ理由で断っていますが、どちらの方が誘った方を傷つけないでしょうか。

幼児教育では、樹木の根にあたる「情（感覚）」を育てます。義務教育では、樹木の幹にあたる「意志」を育てます。高等学校や大学では、樹木の葉や花にあたる「専門的な知識や技能」を育てます。今は、どちらかというと、樹木の葉や花にあたる知識ばかりを詰め込むことに一生懸命になっている方が多いように思います。樹木に例えたのは、葉や花をたくさん咲かせようとしたときに、太い根が張っていて、丈夫な幹がなければ、その上に葉や花は付きません。豊かな心を育て、志をもてば、自分から知識を求めるようになります。また、情がある温かい人、いつも笑顔の人のところに人が集まります。根がしっかり張っているところには、花が咲くということです。

人間関係というのは、技術ではありません。しっかりとその人に向き合えるのか、気持ちを届けられるのか、聞く耳をもって無条件に相手の思いを受け入れられるのか、そんな心が大切なのではないでしょうか。

人と比べたり、先々のことを心配したりするよりも、今をじっくり踏みしめて生きていく、その一歩一歩が未来につながります。

参考：テレビ寺子屋　川村妙慶